

製品名: Bcr ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07519**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	143kDa

抗原情報

遺伝子名	BCR
別名	BCR; BCR1; D22S11; Breakpoint cluster region protein; Renal carcinoma antigen NY-REN-26
遺伝子 ID	613.0
SwissProt ID	P11274
免疫原	抗血清はヒト Bcr 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 144-193

背景

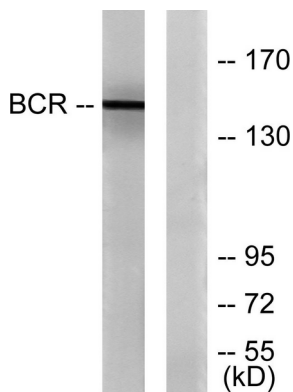
22 番染色体と 9 番染色体間の相互転座により、慢性骨髄性白血病患者によく見られるフィラデルフィア染色体が生じます。この転座の 22 番染色体切断点は BCR 遺伝子内にあります。この転座により、BCR と 9 番染色体切断点にある遺伝子 ABL の両方の配列によ

てコードされる融合タンパク質が生成されます。BCR-ABL 融合タンパク質は広く研究されていますが、正常な BCR 遺伝子産物の機能は明らかではありません。このタンパク質はセリン/スレオニンキナーゼ活性を有し、p21^{rac} の GTPase 活性化タンパク質です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見つかっています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、疾患: BCR に関連する染色体異常は、慢性骨髄性白血病 (CML) [MIM:608232]の原因です。ABL1 との転座 t(9;22)(q34;q11)。この転座は、急性骨髄性白血病 (AML) および急性リンパ芽球性白血病 (ALL) にも見られる BCR-ABL を生成します。、ドメイン: DH ドメインは CCPG1 との相互作用に関与しています。、ドメイン: ABL1 との結合に関与する領域である SH2 ドメインはセリン残基が豊富であり、SH2 結合前に Ser/Thr リン酸化される必要があります。この領域は、ABL1 チロシンキナーゼの活性化と、キメラ BCR-ABL 癌遺伝子のトランスフォーメーション能に必須である。、機能: RAC1 および CDC42 の GTPase 活性化タンパク質。RAC または CDC42 に結合した GDP の GTP による交換を促進し、それらを活性化する。セリン/スレオニンキナーゼ活性を示す。、PTM: 自己リン酸化。、類似性: C2 ドメインを 1 つ含む。、類似性: DH (DBL 相同) ドメインを 1 つ含む。、類似性: PH ドメインを 1 つ含む。、類似性: Rho-GAP ドメインを 1 つ含む。、サブユニット: ホモテトラマー。PDZK1 と相互作用する。CCPG1 と相互作用する可能性がある。、

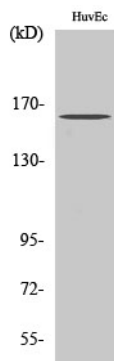
研究分野

がんの経路;慢性骨髄性白血病;

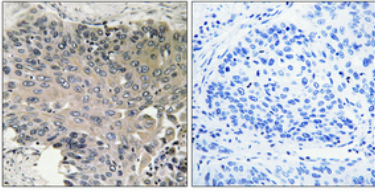
画像データ



K562 細胞ライセートの Bcr 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Bcr ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。